

## 4.2 「北陸地方整備局における電子納品の利活用」

### 4.2.1 はじめに

北陸地方整備局では、電子納品を用いて業務改善に向けた情報の利活用について、平成 14 年度から平成 16 年度の間、国営越後丘陵公園事務所と北陸技術事務所（以下、「北技」という）の 2 事務所で取り組まれた。

一つ目の事例は、平成 14 年 4 月に同公園で行われた、第 13 回「みどり愛護のつどい」の式典実施計画および運營業務について電子納品情報を活用し業務改善を図ったことによる報告。

二事例目は、平成 16 年度から、工事完成図書については全て「電子納品」で提出することになったことにより、当地方整備局では、「電子納品(副)」を円滑に各事務所から北技に集めるシステム開発と、保管管理システムを運用し、その保管されたデータの利活用の検討について報告するものである（表 4-2）。

### 4.2.2 業務改善：事例-1「国営越後丘陵公園事務所」 【電子納品データの情報共有システムによる業務改善】

#### 4.2.2.1 概要

本報告は、平成 14 年 4 月末に、皇太子同妃両殿下のご臨席のもと、国営越後丘陵公園で行われた、第 13 回「みどりの愛護のつどい」の、式典実施計画および運營業務について電子納品情報を活用し業務改善を図った事例である。

皇族ご臨席のもとで開催される式典のため、宮内庁や、警備当局を始めとした関係各機関との調整が必要であった。このため、委託業者と職員との情報共有を図り、双方の役割分担に従って成果の精度を高めることで、式典計画、運営に関して業務改善が図れたものである（図 4-2）。

表 4-2 業務改善取り組み事例

年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
取り組み状況	電子納品を活用した業務改善	電子納品の円滑化と利活用の検討	電子納品の円滑化と利活用の検討と検証
担当事務所	国営越後丘陵公園事務所	北陸技術事務所	

## 業務の概要

### H14年4月「第13回 みどり愛護のつどい」



皇太子同妃両殿下 ご臨席

全国の緑化活動に功績のあった団体を表彰する式典  
実施計画作成、当日運營業務(参加者：約 5,000人)

Echigo Hillside Park

越後丘陵公園

図 4-2 「みどり愛護のつどい」開催における業務改善

#### 4.2.2.2 業務改善の内容

当式典の参加者は約 5,000 人と規模の大きなものであり、式典の運営計画は概ね次のような内容で構成されている。

- ①式典等進行計画
- ②皇太子両殿下園内行啓計画
- ③警備計画
- ④招待者誘導受付計画
- ⑤会場設営計画

上記の項目の策定については、宮内庁を始めとして、警備当局、県の行啓担当部局等の対外との調整を必要とし、協議なしでは計画を策定することは出来ないのである。

関係各機関との協議にあたっては、関係部局毎に電子納品情報の微調整が必要となるため、それを当地方整備局及び事務所で実施した。この業務に関して、官側が作成した資料と式典計画・運營業務を受注した業者の電子納品データを、業務開始時より密接に情報共有し、甲乙一体となって業務を進めた（図 4-3～図 4-5）。

## 業務改善の内容①

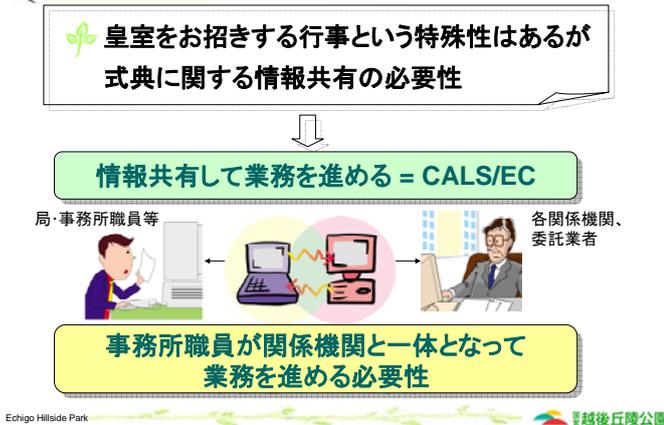


図 4-3 業務改善の内容①

## 業務改善の内容②

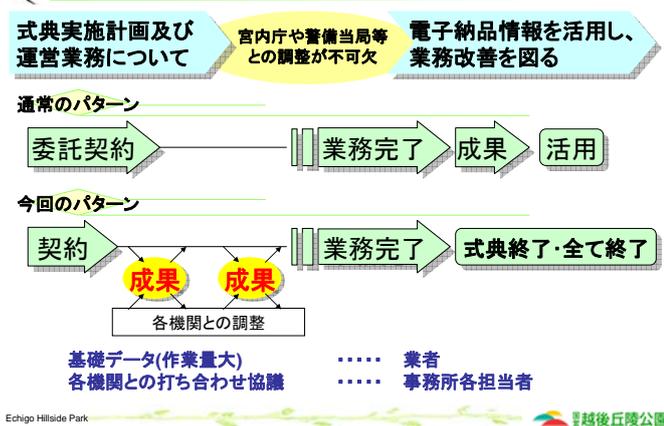


図 4-4 業務改善の内容②

## 業務イメージ

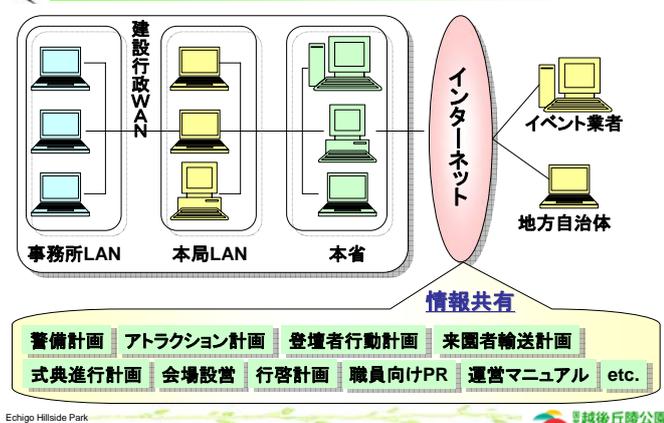


図 4-5 電子納品データの情報共有システムのイメージ

これにより、特に警備当局との調整や、行啓計画の策定に関して、相当な業務改善が図られた。警備当局との調整は、園内の行啓計画と密接に関係し、微細な調整が相当数行われたため委託業者の成果待ちではタイムリーな合意形成が難しいことが多々あった。協議資料のうちベースとなる作業量の多い部分を業者が作成し、微細な調整に関して官側で作業を行う役割分担で業務を行った。

改善効果については、定量化の難しいところであるが、迅速に警備当局との調整が行えた点で相当な業務改善効果があったと考えている。

(事前準備)

この業務を実施する前に次の項目について事前準備を行っている。

①イベント業者との使用ソフトの統一（国交省の使用標準ソフトのみでは対応が難しいことが多い）

②当方の職員等のアプリケーションソフトに関する習熟期間を取る（使用ソフトを電子情報管理者の了解を得て事前購入し習熟をしておく）

③北陸地方整備局の試行として実施している、委託職員等の所内 LAN 接続の試行対象事務所に位置づけてもらった。

### 4.2.2.3 今後の課題

今後同様な業務方法を展開するには以下の課題がある（図 4-6、図 4-7）。

①IT スキルの向上（ソフトに熟練していないと作業に非常に時間が掛かる。これについては事前準備で対応可能）

②ネットワーク回線の増強（回線の伝送速度が遅いと、送受信にかなり時間がかかる。近年中の光ケーブルネットワーク完成時には問題がなくなる）

③委託職員との情報共有が出来ないと業務改善効果が減少する（制度化の問題）。